

## 敷地での侵入監視

### ■ 導入の目的

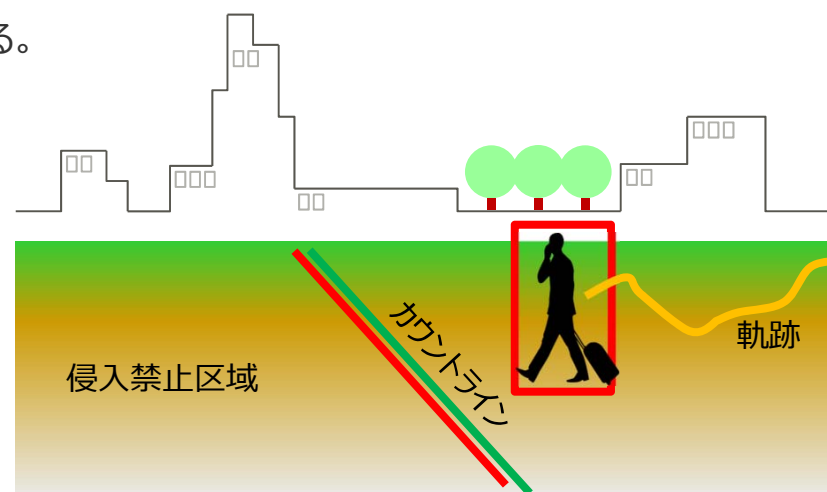
- 365日24時間の監視体制を実現し、監視漏れを減らしたい。
- 監視員の負荷を軽減したい。

### ■ 監視場所の詳細

- 製造工場内の敷地
  - セキュリティ対策上、侵入禁止に指定した区域がある。  
監視員は毎日、監視カメラをつうじて、肉眼で、動体（おもにヒト）の接近・侵入を監視している。
  - 監視員は、精神的または生理的な疲労が重なると、休憩の割合が多くなり、監視漏れが発生する傾向がある。

### ■ TrackingEyeの活用方法

- ① 「カウントライン通過時のアラーム通知」機能で、設定した境界線を越える動体を検知した際に、警告メッセージを表示したり、音響警報を鳴動したりする。
- ② アラームをあげると同時に、カメラが捉えた動体の画像を、具体的な証拠としてパソコンに保存する。
- ③ 動体の、可視化された軌跡を分析することで、侵入経路への対策を検討する。



注) 検知用のカウントライン・動体の大きさは、カメラに写った映像に対して設定します。  
ネットワークカメラは、敷地を一望できる場所に取り付けます。